

「めざせ家庭学習の達人 -自分にあった学び方を身に付けよう-」

○達人になるために -その1-

毎日の学習は、将来生徒の皆さんが社会人として自立するための基礎・基本となるものです。学校でも学習内容が身に付くように「わかる授業」に努めていますが、自主的に家庭学習に取り組むことによって、より確かな学力が身に付くと考えます。時間を有効活用し、家庭学習が計画的にできるようにしましょう。家でまず最初に取り組むのが課題（宿題）です。課題が終わったら次に自主学習（復習）です。最後に予習を含めて次の日の登校準備をしましょう。1日の家庭学習の時間は最低でも1時間以上、休日は2時間以上を目安にしてほしいと思います。



○達人になるために -その2-

基礎的・基本的な「知識や技能」はもちろんですが、自ら課題を見付け解決する力が必要です。また、筋道を立てて考える力や広い視野で物事を見る力もさらに必要で、よりよい問題解決に向けて、積極的に学ぶ姿勢が大切です。新しい学習内容を生活に関連付けて自分なりの考えをもって発表できることも必要です。「達人への道 -各教科-」では、「基礎編」と「発展編」に分かれています。苦手な教科は基礎編を、得意な教科は発展編を参考にしてください。もちろん、得意な人が基礎編を参考にしながら学習してもよいと思います。

○達人への道 -五箇条-

- ・ 学習を開始する時刻と時間を決めましょう。
- ・ 学習場所の整理整頓をし、「ながら勉強」をしないで、集中して学習しましょう。
- ・ 計画的に毎日継続して取り組みましょう。
- ・ 就寝時刻を決め、睡眠時間を確保しましょう。
- ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、家庭内の約束事を守りましょう。



○達人への道 -国語科-

基本編	発展編
<p>① すらすら読めるまで声に出して読む 授業で学習している文章を、毎日声に出して読みましょう。毎日音読することで読めない漢字に気が付きます。また、内容が頭に浮かぶようになります。</p> <p>② 漢字は書いて覚える 見て覚えるより、書いて覚える方が漢字を忘れません。特に「へん」や「つくり」の意味を考えながら書くと記憶しやすく、何度も正しく書いて覚えましょう。</p> <p>③ 分からない言葉はすぐ辞書で調べる 分からない言葉がでてきたら、すぐに辞書で意味を調べましょう。意味が分か</p>	<p>授業で学習した作者について調べたり、他の著書を読んでみましょう。また、主人公や登場人物の生き方に対する、自分の考えをまとめてみましょう。</p> <p>同じ「へん」や「つくり」の漢字や同じ音や訓の漢字、同じ漢字が含まれる熟語やことわざを探してみましょう。漢字検定等に挑戦するなど、目標をつくと積極的に取り組みます。</p> <p>国語の教科書だけでなく、読書で読んでいる本、新聞、ニュースなどでも、分か</p>

<p>れば文章の内容は理解できます。国語辞典や漢和辞典で調べると分かる言葉が多くなり、国語の力がレベルアップします。</p>	<p>らない言葉が出てきたら、調べてみましょう。さらなる国語の力が付きます。</p>
--	--

○達人への道 -社会科-

基本編	発展編
<p>① 復習に重点を置いて、書いて覚える 教科書をしっかり読み、ノートを見直して学習のポイントを確認しましょう。重要語句や人物名は漢字で書けるように覚えましょう。地理だけでなく、歴史でも地図帳を活用し、地名の確認をしましょう。</p> <p>② 学習した内容を詳しく調べる 地理、歴史、公民の学習内容は互に関連しています。「なぜ」「どういうこと」という疑問をもって調べると楽しい学習になります。図書室の本やインターネットなどを活用して調べることは、情報を集める力を付けることができます。</p> <p>③ 学習内容を社会の動きと関連付ける 社会科は、社会の動き、人間の生活を扱う教科です。新聞やニュースを見ることで社会科の学習が好きになります。教科書や地図帳、資料集で関係するところを探すのも楽しいと思います。</p>	<p>地図を描く、グラフで表す、資料を読み取ることで、学習内容を深めることができます。歴史では時代の流れや特徴をつかむため、年表づくりや時代ごとのまとめも有効です。</p> <p>社会の出来事は「いつ・どこで・だれが・何を・どのように・なぜ」でまとめると深く理解することができます。もし、自分だったらどのように行動するか想像するのもおもしろいと思います。</p> <p>社会で起きていることなどをテーマに合わせて、新聞記事を切り抜いてノートに貼ったり、インターネット上の情報を集めたりしてみましょう。感想や意見を加えると、物事を深く見つめる力や考える力が付きます。</p>

○達人への道 -数学科-

基本編	発展編
<p>① 教科書の例題を理解する 教科書の例題は、解き方や考え方の基本が示してあります。式の意味、計算のしかたや流れをしっかりと理解しましょう。例題を自分の力で解いて自分のものにしたなら、練習問題にも挑戦しましょう。</p> <p>② 復習して何回もくり返して練習する 授業で学習した内容を身に付けるには、ワークや教科書の問題を何回もくり返し復習することが大切です。問題の解き方は、教科書や問題集に直接書き込まず、ノートに書いて分かるまで何度もやり直</p>	<p>応用問題が解けないという人は、ワークや問題集などにあるいろいろな問題を数多く解き、様々な形で出される問題に慣れましょう。</p> <p>内容に応じた解き方を身に付けることも大切です。例えば関数では、グラフや表を書き、関数の式をまとめる練習も大切です。証明問題は、例題を見て内容やしくみを考えます。関数と図形の混ざった</p>

<p>します。</p> <p>③ 公式を使えるようにする 数学の公式や定理は、覚えるだけでは使いこなせるようになりません。問題に合わせて使えるようになりましょう。公式や定理にある文字や言葉が何を表している、どのようなときに使えるのか覚えるようにしましょう。</p>	<p>総合問題にも挑戦していきましょう。</p> <p>もし自分で問題集を購入する場合、「ちょっと簡単」というくらいの問題集がよいと思います。また、力に応じて基本問題、応用問題、発展問題などに分かれているものも使いやすいと思います。</p>
--	--

○達人への道 -理科-

基本編	発展編
<p>① 教科書とノートの見直しをする 教科書とノートには、学習のポイントが満載です。教科書とノートの見直しによって、授業で学習した内容が身に付きます。授業内容を確認しながら、要点をまとめると理解が深まります。さらにワークで練習問題を解きましょう。</p> <p>② 実験のまとめをきちんと行う 授業で行った実験について、「どのような方法、手順で行うか」「結果から何が言えるか」を自分なりにまとめましょう。「目的と方法」「結果と考察」をそれぞれ関連付けることで、学習内容が身に付き、理解が深められます。</p> <p>③ 学習内容を身の回りの自然や生活と関連付ける 身の回りの自然と生活には、理科に関わる学習の素材があふれています。例えば、地域の動植物を観察していると、自然の規則性に気付くことがあります。理科の学習の楽しさが分かり、学習内容が身に付き、理解が深められます。</p>	<p>教科書の文章や図などを整理して、要点をまとめましょう。ワークは、学習したことを問題に当てはめて考える力を付けたり、重要事項を覚えたりすることに効果的です。</p> <p>実験の手順や器具の操作方法、実験上の注意事項などを図を使ってまとめると分かりやすくなります。結果をグラフに表すなどのデータ処理をすると、「考察」が深められます。</p> <p>図書室の本やインターネットを活用して、普段の生活で疑問に思ったことについて調べてみましょう。また、観察したことを記録し、図表でまとめてみましょう。科学研究発表会などにも参加してみましょう。</p>

○達人への道 -英語科-

基本編	発展編
<p>① 教科書を音読する。 教科書を声に出して読む練習を毎日少なくとも3回以上は行いましょう。家でも発音できるように、授業中の先生の発音をしっかりと聞いて、正確に発音でき</p>	<p>音読によってリスニング（聞く）力も伸びます。リスニングのCDなども活用しましょう。ラジオやテレビの語学番組を視聴するのもリスニング力をアップさせ</p>

<p>るようにします。「習ったその日に音読すること」が大切です。</p> <p>② ノートに書いて覚える 教科書の単語や英文をゆっくり発音しながら、ていねいに書き写します。単語ならノート1行、英文なら5回くらい書きましょう。覚えるまでくり返し書くことが大切です。時間をおいて復習し、書けなかったものを中心にくり返し練習しましょう。</p> <p>③ 基本文をマスターする 基本文とは、教科書にのっている重要な英文です。基本文を覚え、文を見て「読める」、文の「意味が分かる」、文が「書ける」ようにします。授業のノートやワーク、教科書を使って復習しましょう。</p>	<p>ます。</p> <p>予習で英単語の意味や発音を辞書で調べ、単語帳やカード、ノートに書いておくと、あとで使うことができます。ノートの左ページに英文、右ページに日本語を書き、日本語を見て英文を書く練習をすると力が付きます。</p> <p>英語検定等に挑戦し、目標をもって学習に取り組みましょう。英語を使って日記や手紙を書くことも力が付きます。</p>
---	---

○達人への道 -その他の教科-

音 楽 科
<p>家庭でも音楽に親しみ、様々なジャンルの音楽を聴くように心がけましょう。学校で学習した楽曲は、家庭でも歌ったり演奏したりして、その特色や内容などをまとめてみましょう。</p>
美 術 科
<p>展覧会に出かけてみたり、美術の本やテレビ番組をみたりして美術に親しみましょう。日頃から目に止まったものをスケッチするなど、感じたことを書き留めましょう。</p>
保 健 体 育 科
<p>保健で学んだことを実生活で生かせるようにし、家庭で健康や安全についての話題を話し合ってみましょう。体育では、自分の体力や運動能力を自覚し、それらをも高めるために運動に親しんだり、いろいろなスポーツを観戦したりする機会を作りましょう。</p>
技 術 ・ 家 庭 科
<p>日頃、生活に関する疑問をもったらメモしたり、家事を積極的に手伝ったりしましょう。電気製品やコンピュータなど利用する機会があれば、積極的に挑戦しましょう。コンピュータのローマ字入力が不安な人は、復習しておきましょう。</p>